

平成21年度事務事業評価シート(20年度実施事業分)

事業番号		04 03 15	中期総合計画主要施策番号		3-04、4-02		担当課	部・課	社会部長寿福祉課	
事業名		長野県長寿社会開発センター運営事業補助金				内線		2437		
						E-mail		choju@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・(財)長野県長寿社会開発センター(以下「センター」)が実施する高齢者の生きがいと健康づくり事業を支援し、豊かで活力ある長寿社会の実現を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・超高齢社会を迎えている中、高齢者等が社会参加活動等により生きがいと健康づくりに取り組むことが見込まれるが、それに対する「活動の場づくり」「仲間づくりの場」「気運づくり」が十分とはいえない。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・具体的にどのような社会参加活動をしたいかが明確でなかったり、どこに相談したらいいのかもわからない。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・社会参加活動等により生きがいと健康づくりをしようとする高齢者に対し、多様な「活動の場」「仲間づくりの場」を提供するとともに、「気運づくり」を一層推進していく必要がある。								
		センターが実施する次の事業及び事務局経費に対し、補助を行う。 ・信州ねんりんピック(スポーツ交流大会、高齢者作品展、講演会等)の開催 ・全国健康福祉祭(スポーツ交流大会、文化交流大会等)への参加 ・シニア大学の運営 等								
		実施期間	H元 ~		根拠法令等	(財)長野県長寿社会開発センター運営事業補助金交付要綱				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
・高齢者の生きがいと健康づくり事業を支援し、豊かで活力のある長寿社会の実現を図る。		・定員並(1,500人)のシニア大学入学者を確保するとともに、満足いただける講座を提供する。 ・信州ねんりんピックの参加者数について、中信地区での前回の開催時(平成16年)と同程度(3,000人)の参加を目指す。 東信、北信、中信、南信の持ち回り開催			・シニア大学入学者数は1,488人で定員並を確保できた。 ・シニア大学生アンケートで、87%の方が概ね満足していると回答。 ・信州ねんりんピックの参加者数は、3,200人で、中信地区での前回開催時参加者数以上の参加があった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	80,482	116,539	114,124	国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円	80,482	116,539		実施方法 補助			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	80,482	108,970	106,659	歳出節別 内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.20	0.20	0.20	補助金:116,539 (単位:千円)			
	概算人件費 (C)		千円	1,428	1,430	1,430				
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	81,910	117,969	115,554					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	信州ねんりんピック参加者		人	4,000	3,200	3,000				
	シニア大学入学者数		人	1,588	1,488	1,500				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・県下10広域に支部を構築し、全県的に事業を実施していくためには、県の関与が妥当である。 ・県直営となっていたシニア大学を一体的に実施することとなったので、有効性及び効率性を高める余地は当面ない。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・センターは県補助事業のほか、独自事業を実施しており、高齢者の生きがいと健康づくり、社会参加の機会提供に寄与している。 ・高齢者の社会参加活動を更に活性化するため、関係機関との更なる連携が必要である。							